

2 MIN

意外

1 MIN

0 MIN

急

○早朝のランニングコース

無人の中に、走る二人の影。

双葉（20）、ハチ（20）に写真を見る。

双葉 「北原要。研究所から脱走して既に八年。我々の組織が暗殺したはずだけど……」

ハチ 「どっこい生きてたと」

北原博士（50）の写真。
裏には山中の廃屋の写真。

ハチ 「潜伏してんの？」

双葉 「確認は取れていない。ただ彼しかアクセス出来ないサイトに八年ぶりにアクセスが現れ、廃屋に人影があり、発信元がその辺なのは確か」

ハチ 「デッドオアアライブ」

双葉 「デッド」

写真を見つめるハチ。

「最後の仕事か。いよいよ戸籍を貰え

ハチ 「ハチ、名前は考えた？」
双葉 「ハチ、が俺に似合ってるからそのままかな。双葉は？ この組織を抜けたあと

は？」

双葉 「キヤサリン」

ハチ 「外人かよ！」

双葉 「（笑）」

ハチ 「先に婆婆で待ってるぜ、キヤサリン
（笑）」

急の中的緩

○深夜、山中の廃屋

忍び込む黒装束のハチ。
化学系の実験器具などが転がっている。

ドアから明かりが漏れている。

蹴破り、銃を向けるハチ。

ハチ 「……？」
振り向いたのは、薬品の実験をしてい
た、子供、護（8）。

ハチ 振り向いたのは、薬品の実験をしてい

17P

○早朝のランニングコース（翌日）

双葉 「子供って、どういうこと？」

ハチ 「俺が聞きてえよ。北原博士って何者だ？」

双葉 「私は伝えられていない」

ハチ 「誰かにとつて、消したい奴なんだな」

双葉 「……」

○ぼろアパート、8号室

護 「お帰りー。朝飯食うだろ？ ランニ

ングの調子は？」

ハチ 「悪くねえけど……つて！！！」

護は芋虫を手に持ち、もぐもぐと口を動かしている。

護 「公園みつけるの苦労したよ」

ハチ 「お前、虫食うのか！」

ハチ 「山では貴重な蛋白源だろ。少ない？」

ハチ 「……」

○ラーメン屋

護 「うめー、なんだこれ！」

ハチ 「そこまで大した店じやねえけどな、ここ」

店長に睨まれる。

満足げに食べ終わる二人。ふと流れるメロディに護が反応。一緒に歌いだす。

ハチ 「（たとえば「ハイティーンブギ」）

ハチ 「なんで知つてんだよ。お前生まれてねえだろ」

護 「んーラブリナイト♪」

ハチ 「親は？ ずっと一人で生きてきたのか？」

ハチ 「そうだ、名前は？」

ハチ 「いない、はい、滝が近くに、自分で切つてる、名前はない」

ハチ 「……矢継ぎ早に答えるなよ」

緊

4

急

ちよっこした野張 (次の事件)

5

- アパートの一階、外
- 部屋に入ろうとするハチ。
- 隣の犬小屋に寝ている犬を観察する護。
- まぶたを裏返したり、専門的な観察。
- ハチ 「どうした？」
- 「熱があるみたいだよ。ぐつたりして
る」
- ハチ 「(走ってきて) ホントだ！
(扉を
ガングン叩く) オイ燕さん！ アンタんと
このジョニー、熱あるぞ！ なんか悪いも
んでも食わせたか！」
- 護つて自分で名乗つてる
- 「矢継ぎ早に聞くからだろ？」
- 「名前、……ないつて？」
- 「八番、つて呼ばれてた」
- ハチ 「……俺と同じじやねえか。俺も八番
扱いされてて、だからハチつて呼ばれてる」
- 「山で拾つた漫画の主人公から取つて、
護つて自分で名乗つてる」

○ヤブの医院

- ヤブ (55) に注射されるジョニー。
- 護 「〇〇反応がなく、脈拍は70、血圧
は眼底を見たところ〇〇程度だと思いま
す」
- ヤブ 「驚いたな。なんでそんなこと知つて
る」
- 「習つたので」
- ヤブ 「医者にすぐなれるぞ」
- ハチ 「医者と獣医は違うだろ」
- ヤブ 「どつちも一緒だろ。命を治すのに違
はず」
- ヤブ 「驚いたな。なんでそんなこと知つて
る」
- ハチ 「免許ねえくせに」
- ヤブ 「お前、何回怪しげな傷縫つてやつた
と思つてんだ」
- 二人のやり取りを見ながら、ジョニー
を撫でる護。

○帰り道の公園

自転車で遊ぶ子供たち。

「ここで虫見つけた！」

「いらねえよ！」

「あと、自転車乗つたことないから、乗つてみたい！」

「ねえのか」

「うん」

「オーケイ！ ちょっと！」

と子供たちに交渉。

苦労して乗れるようになる護。

はしやぐ二人。

× × × ×

「ドボン」と言つたら地面に伏せなき

やいけない子供たちの遊びを見て。

「あれやろうよ」

「よし、じゃあ……」

「ドボン！ (と伏せる) ハイハチの負

けー！」

「まだ始まつてねえだろ！」

「おせえよ！ (笑)」

ハチ 「よし分かつた、あのラーメン屋の秘

密を教えてやるよ

「？」

ハチ 「まず水が違う。次に麵だ。なにより

チヤーシュードラ。特製自家ダレにドボン

とつけて……

と伏せる。

「あ！」

「ハイ護の負けー」

「ずりい！」

ハチ 「地面に伏せるってのは、負けだ

と思うだろ。違うんだ。こつから大逆転す

る為の布石なんだぜ。高く飛び上がる為に

は、地に伏せるだろ」

「……うん」

轟

8

7

轟

6

ターニングポイント

8



急

9
直実の吐露

○8号室

ハチ、大の字になる。
「昔よくこうやつたよ。視界全部が空になつてきもちいいぞ」

護も真似をする。

ハチ 「…名前がなくたつて、気にしなくていいんだ」

ハチ 「ハチ」

ハチ 「何？」

ハチ 「？」

ハチ 「犬に尻を噛まれてくれない？」

ハチ 「？」

護士の8番目のクローンなんだ」

ハチ 「はあ？」

「IQ250の博士は、テロ組織に拉

致されて、殺人ウイルスを造らされていたんだ。狂犬病の変異種で、犬から世間ばらまく計画」

ハチ 「だから暗殺を」

「でも博士は自分のクローンをつくることで、ウイルスの抗体をつくる研究を託したんだ。1番目から7番目のクローンは失敗して死んだらしい。俺は8番目」

×

×

×

×

×

廃屋で、動画で北原博士からのメッセージ
「ジや科学教育を受ける護。」
その中に博士が古い歌を歌う場面。

×

×

×

×

×

×

「俺がようやく抗体を完成させた。どうしても北原博士の暗号が必要で、サイトに1ミリ秒だけアクセスしたんだけど、バレちゃつたみたい」「で、俺が暗殺に向けられたと」「あ。ジヨニーに何かしたんだな」「うん。ごめん。あとはジヨニーがハ

10



12

10

ターニングポイント

27P

チを噛んで、高熱出して、治れば抗体ができる。その血清を培養する。何万人もが、命を狙われなくて済む

ハチ 護
ハチ 「…何で俺が」「初めてできた、友達だから」
護 「…」
「協力してよ」

○夜の公園

尻に肉汁を塗るハチ。
ジヨニー、尻にがぶり。

急の中のギヤグ

との対比で
緩急。

○夢の中

子供時代のハチ、泥の森の中で訓練を受けている。
「ナンバーイット、撃て！」

ターゲットを次々打ちぬく。
重装備に次々脱落する仲間の子供たち。
地面に大の字になり、空を眺める。

○（現実に戻り）8号室

汗をかいて、目を覚ますハチ。
試験管の中の血。微笑む護はうなづく。

ハチ 「ドボン！」

咄嗟に伏せる護。同様に伏せるハチ。
ドアの向こうから銃弾が三発撃ち込まれる。割れる窓、飛び散る枕の羽毛。
ベッドの下から銃を取り出し、ドアに向かって発砲するハチ。
ばたりと倒れるドアの向こう。

ハチ 「ヤブさん…！」

ドアを開けると、死んでいたのは銃を持っていたヤブ。

○早朝、ランニングコース

双葉 「組織の元ナンバー1、イチだつたそ

12

うよ。知つてたの？

ハチ 「（首を振り）親父のように慕つてた
よ。戸籍を貰つたら、俺は人を殺すんじゃ
なくて、人を治す医者になりたいと思つて
た」

双葉 「……」

ハチ 「血清は組織には渡さない。俺たちこ
れから渡米して、難民になることにした」

双葉 「はあ？」

ハチ 「C I Aと血清で取り引きして、名前
を貰うのさ。一緒に来ないか？」

双葉 「マジで言つてんの？」

ハチ 「……」

護 「（遠くから）オーイ！ いっぱい朝
ごはん取れたよ！」

ハチ 「やっぱ！ ラーメン屋行こう！」

話 「それからだ、キヤサリン！」

コメダ1911-72
ほんとしねるわよ

このあと、未来が
広がるよ、つながり。
それが大希望という。

名前のない殺し屋ハチが、クローン体の子供
護と出会い、ウイルステロの血清を作る話。

渡 急 後 急 緩 急

13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

(2TP)

(1TP)

3 : 7

3 : 7

依頼

タードソト、戸籍のこと

えいほ事候だつた

組織のあり方に心配の（抜け）

（セーラークエスト）

（スマート）（一と山で生き残り）

大の熱

性愛の悪性 やが

自転車

トボン

地面に伏せること

人に死をかまへよ

コーン テロ 血清

（死をかまへる）

（殺す）

金庫、鍵

（組織の暗殺とは逆）

「地に伏せろ！」

脚本 大岡俊彦

1

絵示せる

「自分を取られたら」とか
「生きる力を見出す」とかの
抽象家ではなく、
とも思ひぬであるし、ここに注目せよ。

「生きる力を見出す」とかの
抽象家ではなく、

自分を取られたら」とか